

平成 30 年度第 1 回長野市環境審議会 議事録

【開催概要】

- ・ 日 時：平成 30 年 8 月 8 日（水）午後 2 時から午後 3 時 30 分
- ・ 場 所：リサイクルプラザ 2 階 大会議室
- ・ 出席者
委 員：大澤会長、高見澤副会長、北澤委員、久保田委員、倉崎委員、小林委員、渡邊委員
赤羽委員、飯島委員、竜野委員、中澤委員、小川委員、駒村委員、清水委員、望月委員
事務局：井上環境部長、倉島次長兼環境保全温暖化対策課長、石坂廃棄物対策課長、松本生活
環境課長、市川清掃センター所長、曾根衛生センター所長、高橋主幹兼環境保全温暖化対
策課長補佐、山岸環境保全温暖化対策課長補佐、鈴木環境保全温暖化対策課係長、吉岡環
境保全温暖化対策課係長、吉原環境保全温暖化対策課主査

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付及び委員紹介
- 3 あいさつ
- 4 事務局紹介
- 5 正副会長選出
- 6 会長あいさつ
- 7 報告事項
 - (1) 「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる
条例」について
 - (2) 平成 29 年度長野市環境基本計画後期計画の取組結果について
 - ア 第二次長野市環境基本計画の取組結果とマネジメントレビューについて
 - イ 平成 30 年度指標・目標値の設定について
 - ウ 平成 29 年度市有施設のエネギー使用量について
 - (3) 平成 29 年度環境施策について
 - (4) その他
 - ア 太陽光発電システム普及促進事業補助金について
- 8 その他
 - (1) 公共施設マネジメントに理解をいただくために
- 9 閉 会

【資 料】

- ・ 資料 1 長野市環境審議会委員名簿
- ・ 資料 2 平成 30 年度長野市環境審議会事務局名簿
- ・ 資料 3 長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる
条例について
- ・ 資料 4-1 第二次長野市環境基本計画の取組結果とマネジメントレビューについて
- ・ 資料 4-2 平成 30 年度指標・目標値の設定について
- ・ 資料 4-3 平成 29 年度市有施設のエネギー使用量について
- ・ 資料 5 平成 29 年度環境施策について
- ・ 別紙 市役所庁舎内売店のレジ袋使用削減への取組について
- ・ 資料 6 太陽光発電システム普及促進事業補助金について
- ・ 資料 7 公共施設マネジメントに理解をいただくために（公共施設マネジメント推進課）

【審議内容】

1 開 会

2 委嘱書交付及び委員紹介

【資料 1】

3 あいさつ

4 事務局紹介

【資料 2】

5 正副会長選出

委員の互選により決定

会長 大澤委員 副会長 高見澤委員

6 会長あいさつ

7 報告事項

- (1)「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる
条例」について

【資料 3】

(竜野委員)

2 ページ目の「2 標識等の設置義務」について、外国人観光客にもわかりやすい複数言語及びピクトグラムの使用や、4 ページ目の「4 事業の考察及び今後の方針」の中で、4 つ目により分かりやすい周知方法を検討、実施するとあるが、写真の路面シートについてピクトグラムが使用されていない気がするが、あえて文字表記としたのか。

(事務局)

路面標示については、情報を多く盛り込むことができない状況もあり、日本語の下に英語と背面に禁止マークのピクトグラムを表記させていただいている。現在、ポスター、チラシ、他の周知啓発ツールにおいても、日本語と英語、ピクトグラムの表記になっている。

今後は、中国語、韓国語及びタガログ語などの表記のデザインもインバウンド国際室と検討し、分かりやすいピクトグラムの表記にしたい。

(竜野委員)

路面に貼ってあるものを読むとは思えない。ピクトグラム一つ見れば、禁煙と理解できると思われるため、一目で理解できるシンプルな表記が良いと考える。

(事務局)

今後のデザインの参考にしたい。

(駒村委員)

【2 状況調査】での、歩行喫煙者数の調査とあるが、いまだに歩行喫煙者がいるのか。

(事務局)

今現在も、歩行喫煙者はいる状況である。

(望月委員)

さまざまな場所で、ポイ捨てに関してPR活動や啓発活動をしている様だが、例えば小、中、高校生など子供を含めたPR活動や啓発活動についてどう考えているか。先を見れば子供たちも大人になる。大人になった時にポイ捨てがなければ良いわけで、実際、学生は学校の委員会などで活動をしている。具体的に何かあれば、お聞きしたい。

(事務局)

以前にもお話したが、小、中学校ではゴミ拾いなどの活動をしている。その結果、残念ながら一番多く拾うごみは、たばこの吸い殻である。大人が捨てたごみを子供が拾い、特にたばこの吸い殻が多い事について、学校の活動報告をまとめた「えこねくしょん」を通して家庭にお知らせしている。事実を伝える事により、家庭で考えていただく機会を持つ様に取り組んでいる。子供向けについては、機会が持てるか教育委員会と検討していきたい。

資料の最後に写真を掲載したが、4月1日の歩行喫煙禁止条例の施行セレモニーの際に、長野市内のキャラクターと一緒にPRしたが、子供たちが非常に喜んで一緒に記念撮影をしていた。「長野市の規制は、罰則や重点地区を設ける条例」と強くクローズアップされたが、長野市環境部としては、規制でなく、理解していただき問題を解決していくべきと考え、キャラクターも活用させていただいた。

また、先ほどご指摘いただいた歩行喫煙調査は、現在も定点調査を行っているが、減少している感触を得ている。歩行喫煙者も話をさせていただくと、確実に理解をしていただけるため、地道な取組みを進めてまいりたい。

(2) 平成 29 年度長野市環境基本計画後期計画の取組結果について

ア 第二次長野市環境基本計画の取組結果とマネジメントレビューについて 【資料 4-1】

イ 平成 30 年度指標・目標値の設定について 【資料 4-2】

ウ 平成 29 年度市有施設のエネルギー使用量について 【資料 4-3】

(小川委員)

指標・目標値のマイバック持参率には、コンビニエンスストアが含まれているか。

(事務局)

持参率調査の中には、含まれていない。

(小川委員)

コンビニエンスストアでレジ袋の使用量が多いと感じている。

(事務局)

市役所内のコンビニエンスストアでは、市の職員が率先してマイバックの持参やシールだけで受け取る取組みをしている。レジ袋使用削減について、後ほど、市役所の取組みを資料別紙で報告させていただきたい。

(中澤委員)

最近、フランチャイズ協会と環境省でタイアップして、マイバック持参やレジ袋を減らすキャンペーンのステッカーをコンビニエンスストアの出入口付近で見かける。コンビニエンスストアとタイアップして何かできるのではないか。

(事務局)

今、マイクロプラスチックの問題は世界的である。業界でも敏感に反応していると感じる。長野市としても、できることはないか検討してまいりたい。

(清水委員)

エネルギー使用量の報告で、A重油が35%の減と大幅に削減しているのは、努力の成果と思う。エネルギーの種類別構成比の中で、電気の割合が73%と圧倒的に多いが、長野市の小水力発電など再生可能エネルギーが占める電気の割合は、どのくらいか。

(事務局)

長野市エリアで占める割合を示すのは、非常に難しい。長野市独自に大岡、鬼無里など小水力について進めているが、わずかなものである。

(清水委員)

今年の夏は、猛暑で長野県も一般家庭でエアコンを使用しているが電力について心配なニュースが流れないのが不思議である。企業は、もともと省エネなどに取組んでいるが一般家庭で少なくとも4、5年前は夜中までエアコンを稼働させることは、なかったと思うが大丈夫なのか。

(大澤会長)

東日本大震災の後、原子力を使用しない電源強化に取り組んでいるため設備容量はそれなりに持っている。一日の電力使用量はお昼過ぎがピークと言われており、夜間は工場なども止まるため電力として余る状況と思われる。一番は、健康が第一と考える。

(高見沢副会長)

7月は、久しぶりに全国の電力使用量が昨年度をオーバーしたとの記事を見て、総使用量は増えていると思う。しかし、人口が減少している事と旧火力発電で補っている状況の中で、不安はないと思われる。

(事務局)

通常の夏ならピークカットで節電を進めるが、これだけ命に影響を及ぼす恐れのある猛暑では、節電と言えない状況であり、やはり命あってのものと考えている。

(3) 平成29年度環境施策について

【資料5・別紙】

(小川委員)

資料No.9 環境教育・環境学習の推進について、丸太切り体験や自然エネルギーでソーラーカーをつくることなど、一つ一つは大事なテーマであり、わかりやすいと思うが、なぜそれらが大事であるか考察できるような自然に対する関心や愛着を育める環境教育が大切と思う。長野市は、自然環境に恵まれており、小さい頃から当たり前前に自然を感じているが、第三者的に見れば、非常に大事であり大切に思っている。基本的なことを育める教育が必要と思う。

(事務局)

長野市では、教育委員会と環境部で連携し環境教育を行っており、身近なごみがどのように処理されているのか、小学校4年生の社会見学で行っている。リサイクルプラザなどを活用いただき、リサイクルを楽しみながら工夫すれば環境に配慮した行動ができると感じる体験を積める仕掛けを作りたいと教育委員会と検討している。

また、自然に関しまして平成27年に妙高戸隠連山国立公園ができたことは長野市として非常に大きいことであり、教育委員会もどのように活用していくかという思いがあるため、いただいたご意見と併せて身近な自然の大切さを伝えられる教育をお願いしていく。

(小川委員)

方法はいろいろあると思うが、自ら自然の大切さをわかる経験や感性を育むことが基本と思う。学校教育の中の環境教育として、「ごみ拾いは大切です」とか「貴重な資源を守りましょう」など教える形でなく、自分自身の体験の中から、ものを大切にしなければいけない気持ちを育み、環境に対して意識の底上げができる経験がたくさんないといけないと思う。

(事務局)

先日も水生生物調査として身近な川の生き物について、自然観察会を開催したところ、抽選するほど非常に多くの子供たちの参加をいただき、自然に触れることで大切さを感じていただいた。

(小川委員)

川や国立公園も大切ですが、自分の住んでいる身近なところに対して関心を持つように考えていただきたいと思う。

(事務局)

委員のご意見のように学習会では、自然を体験してもらうことをメインにしており、水生生物調査の川体験だけでなく、大谷地湿原や森林博物館など自然の中でモリアオガエルの卵探しや自然に詳しい指導員のもと、草木の特徴について、その場で聞いたり見たりして実際に体験していただいている。観察会や学習会の最後には、指導員や長野市としても発見したことや感じたことを家に帰り、違いがあるのか考えてほしいと話をさせていただいている。自然体験型の学習会などは、限られた回数しか行えないが多くの参加をいただいているため、委員のご意見も含め、今後も進めてまいりたい。

(4) その他

ア 太陽光発電システム普及促進事業補助金について

【資料 6】

(赤羽委員)

太陽光発電の装置について、廃棄が非常に難しいと聞いた。十分、注視していただきたい。

(事務局)

長野市に限る話でなく、全国的に問題になるという事で国も動いている。設置にあたり、リサイクルについての責務も国のガイドラインで求めている。対応については、長野市も逐一公表してまいりたい。

(高見澤副会長)

太陽光発電の補助金について、固定資産税がかかる説明がなく、後からの補足であった。新制度の際には、事前に補助金以外も含んだ説明をお願いしたい。

(事務局)

様々な部分に負担などがかかることも併せて、新制度について検討してまいりたい。

(清水委員)

建築物省エネ法の話があったが、ZEH、ZEB、ライフサイクルカーボンマイナスなど立派な施策があるが、実際、住宅の場合に費用が多くかかる。ネット・ゼロ・エネルギーハウスは、簡単に進まないと考えるが、いかがか。

(事務局)

長野市で答えられる部分でないが、期待もしているし、確実に実行されることを強く望んでいる。

(大澤会長)

これから取り組むべき新たな再生可能エネルギーの普及促進について、専門部会で検討していただきたい。

8 その他

(1) 公共施設マネジメントに理解をいただくために

【資料 7】

特になし

9 閉会